

令和5年度
—アンコンシャス・バイアス—
性別による無意識の思い込み
実態調査結果について
(概要)

令和6年3月
東京都生活文化スポーツ局

I 調査概要

1 調査目的

進路や職業の選択への「性別による思い込み」の影響を明らかにし、効果的な普及啓発手法や子供の進路・職業の選択肢拡大に向けた施策検討につなげていく。

2 調査概要

令和4年度に実施した児童（小学5・6年生）、保護者、教員を対象とした性別による無意識の思い込み実態調査では、大人だけではなく児童でも、「教科の得意・不得意」、「仕事の向き・不向き」に性別が関係していると考えられる傾向があることが明らかになった。このような意識形成の要因や、進路や職業の選択への影響を明らかにするため、高校生及び教員を対象とし、調査を実施した。調査に当たっては、令和4年度調査との比較が可能となるよう調査票の設計を行うとともに、仮説を設定し、これに基づき結果の分析を行った。

3 調査設計

【対象】 都立高等学校 全日制・定時制生徒（1・2年生）、教員

【標本数】 生徒43,210人（有効回答数10,763人）、教員9,467人（同2,549人）

【標本抽出】 生徒については、都立高校全日制・定時制1・2年生83,906人のうち、学校名簿から学科別に割当法で抽出した学校に在籍している課程の生徒を対象、教員については、都立高校に在籍している全教員を対象

【調査期間】 令和5年9月1日（金）から9月21日（木）まで

4 支持された仮説（生徒）

仮説① 小学生に比べ高校生、高校生の中でも上の学年の生徒に、進路・職業に対する「性別による思い込み」のある人が多い。

仮説② 自身の性別と職業に対する「男性/女性らしい」という意識は、将来の職業選択に影響を与える。（影響A）

仮説③ 「性別による思い込み」は、周囲の大人からの影響に限らず、マスメディアなどからの情報、友人、同僚などの言動による影響が見られる。（影響B）

【仮説のイメージ】

保護者や友人、マスメディアやSNS



生徒

性別による思い込み

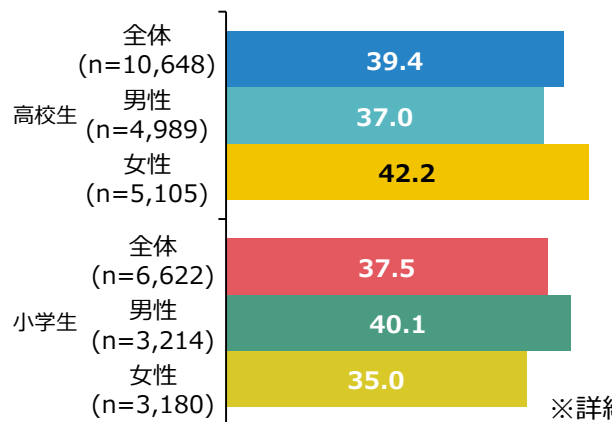
- ・小学生に比べ高校生に、思い込みを持つ人が多い
- ・高校生の中でも上の学年の生徒に、思い込みを持つ人が多い



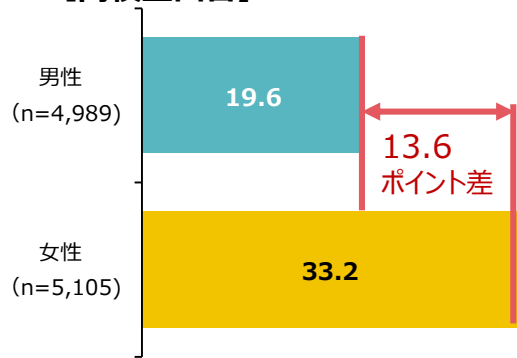
自身の進路・職業
選択に関すること

2 教科に対する「性別による思い込み」

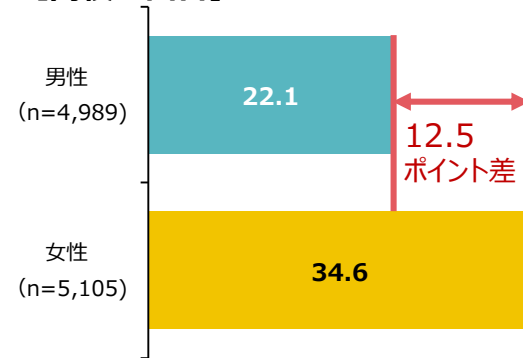
性別で教科の得意・不得意があると思う



理系科目は男性の方が得意だと思う 【高校生回答】

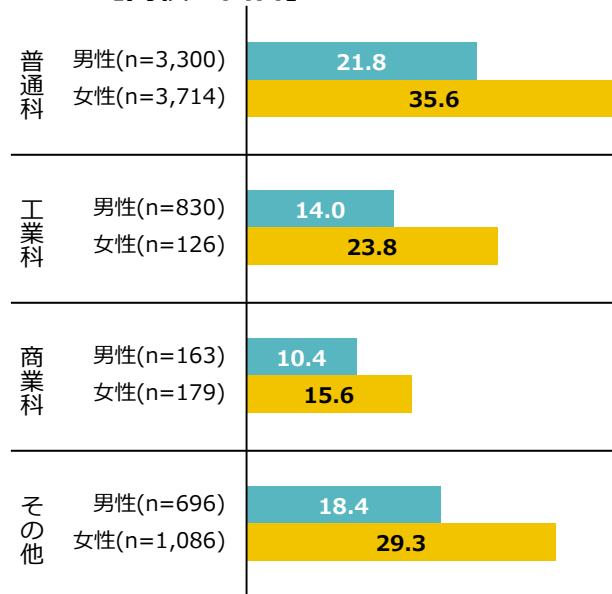


文系科目は女性の方が得意だと思う 【高校生回答】

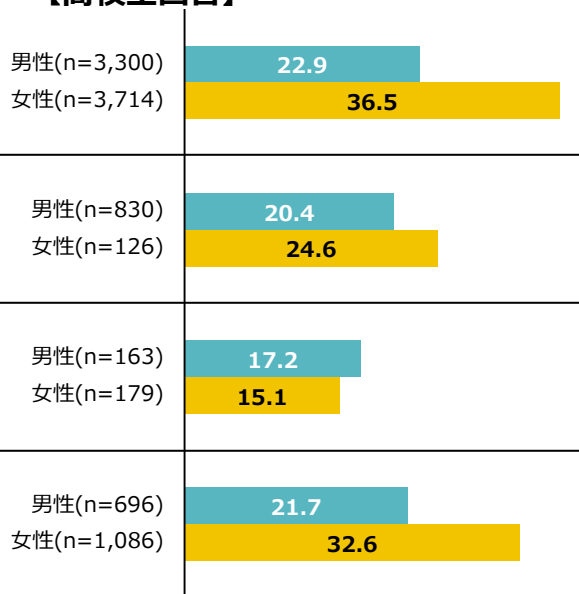


教科に対する「性別による思い込み」は、高校生と小学生で大きな差は見られなかったが、高校生の中では、特に女性の方が教科に対する「性別による思い込み」を持つ人が多い。

理系科目は男性の方が得意だと思う 【高校生回答】



文系科目は女性の方が得意だと思う 【高校生回答】



工業科・商業科の生徒は男女ともに、「理系科目は男性/文系科目は女性の方が得意」と思う割合は普通科と比べて低い。

特に普通科の女性は、「理系科目は男性/文系科目は女性の方が得意」と思う傾向がみられた。

※詳細は調査報告書p.12

3 職業選択に対する「性別による思い込み」

【仮説】自身の性別と職業に対する「男性/女性らしい」という意識は、将来の職業選択に影響を与える。

男性回答	将来就きたい職業		「男性らしい」と思う職業		「女性らしい」と思う職業	
	割合(%)	順位	割合(%)	順位	割合(%)	順位
会社経営	14.0	2位	11.0	9位	2.7	21位
社会貢献	4.0	19位	3.9	14位	4.7	17位
政治や行政	5.5	11位	14.2	7位	2.3	22位
治安維持等	4.7	14位	36.0	2位	1.4	25位
法律	2.6	25位	12.2	8位	2.7	20位
金融・経済	6.5	8位	5.1	13位	3.1	19位
一般事務等	5.6	10位	2.5	20位	5.5	15位
医師	2.4	26位	10.7	10位	6.6	14位
看護師、薬剤師等	4.4	15位	1.6	28位	32.1	2位
動物に関する仕事	5.2	12位	2.3	22位	20.5	4位
保育士、幼稚園の先生	4.4	15位	1.2	29位	43.3	1位
教員	8.1	6位	3.0	18位	13.2	7位
理容・美容・ファッション	4.3	17位	2.1	23位	27.1	3位
スポーツ	13.2	3位	20.9	6位	1.9	23位
デジタル・ソフトウェア	14.2	1位	6.5	11位	1.8	24位
社会福祉	1.7	27位	1.9	25位	8.0	10位
建築・土木	6.7	7位	45.6	1位	0.9	28位
電気・機械	11.8	4位	23.7	4位	0.9	28位
自然・環境	2.8	23位	3.5	15位	3.6	18位
農業・林業・漁業	3.5	21位	21.4	5位	1.2	26位
トラック運送業等	3.7	20位	24.1	3位	1.0	27位
キャビンアテンダント	0.5	29位	6.3	12位	17.7	5位
国際・語学	2.9	22位	1.8	26位	5.3	16位
メディア	1.7	27位	2.9	19位	6.7	13位
芸術	8.6	5位	3.1	16位	7.0	12位
芸能	5.6	9位	3.1	17位	7.9	11位
調理	4.9	13位	2.5	21位	17.6	6位
接客業等	4.1	18位	2.0	24位	9.0	9位
観光	2.7	24位	1.7	27位	10.7	8位

女性回答	将来就きたい職業		「女性らしい」と思う職業		「男性らしい」と思う職業	
	割合(%)	順位	割合(%)	順位	割合(%)	順位
会社経営	5.3	13位	2.0	22位	14.1	10位
社会貢献	3.1	19位	3.9	16位	4.3	13位
政治や行政	3.3	18位	1.5	24位	19.7	7位
治安維持等	1.7	24位	1.0	25位	52.3	2位
法律	1.9	23位	3.0	19位	16.6	9位
金融・経済	3.1	20位	2.5	21位	7.1	12位
一般事務等	7.3	9位	7.7	12位	2.3	22位
医師	2.2	21位	3.3	17位	19.6	8位
看護師、薬剤師等	14.0	3位	39.3	3位	1.4	27位
動物に関する仕事	8.8	6位	21.7	5位	2.4	21位
保育士、幼稚園の先生	13.0	4位	55.1	1位	0.9	29位
教員	8.8	5位	15.7	7位	3.5	17位
理容・美容・ファッション	16.1	1位	40.1	2位	1.8	24位
スポーツ	4.8	14位	1.6	23位	23.1	6位
デジタル・ソフトウェア	4.7	15位	2.5	20位	7.7	11位
社会福祉	4.3	16位	7.1	14位	2.1	23位
建築・土木	2.0	22位	0.8	27位	54.2	1位
電気・機械	0.9	28位	0.7	29位	35.4	4位
自然・環境	1.7	26位	3.1	18位	4.2	15位
農業・林業・漁業	1.7	25位	1.0	26位	26.2	5位
トラック運送業等	0.3	29位	0.7	28位	37.5	3位
キャビンアテンダント	1.5	27位	32.2	4位	4.3	14位
国際・語学	6.3	11位	7.4	13位	1.3	28位
メディア	4.2	17位	7.0	15位	4.0	16位
芸術	15.5	2位	8.7	10位	3.0	19位
芸能	8.4	7位	8.6	11位	3.3	18位
調理	7.7	8位	17.6	6位	2.6	20位
接客業等	6.9	10位	9.7	9位	1.5	26位
観光	6.1	12位	12.6	8位	1.6	25位

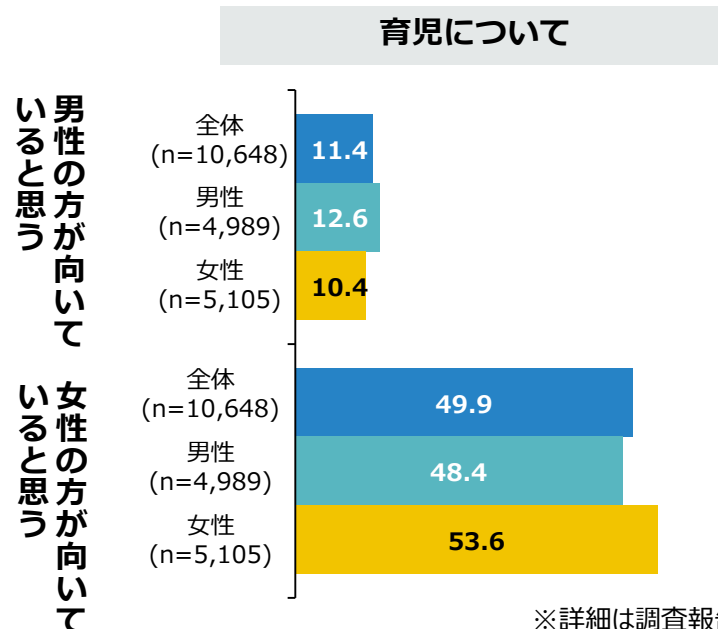
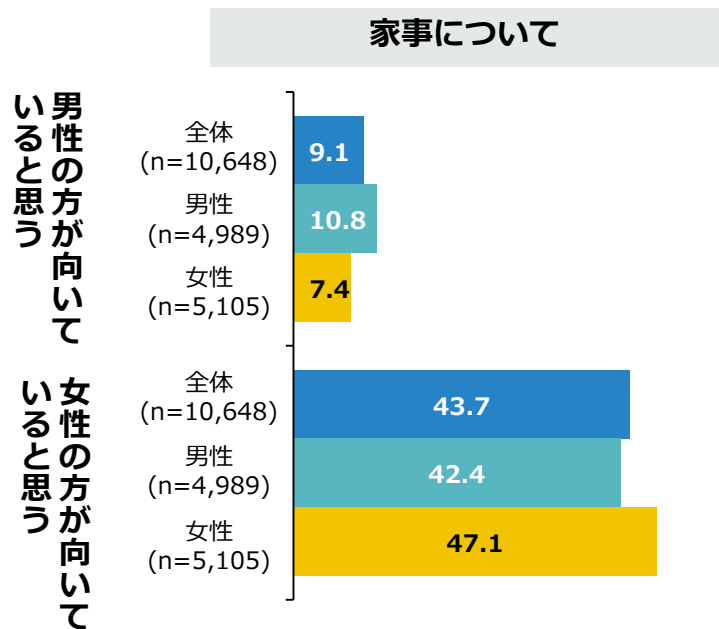
※詳細は調査報告書p.19

結果

男性は「女性らしい」と思う職業、女性は「男性らしい」と思う職業は、自身の将来の選択肢に入りにくい。

➤ 特に女性は、「男性らしい」と思う職業を「将来就きたい職業」に選ばない傾向が顕著であった。

4 家事・育児に対する「性別による思い込み」



※詳細は調査報告書p.24

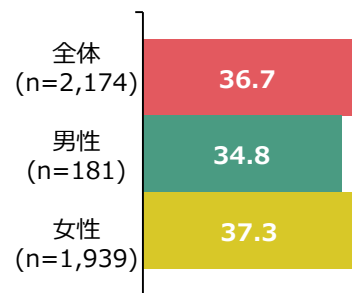
結果

既に高校生から「家事/育児は女性の方が向いている」という意識を持つ人が多い。特に男性に比べ女性の方がその傾向が強く見られた。

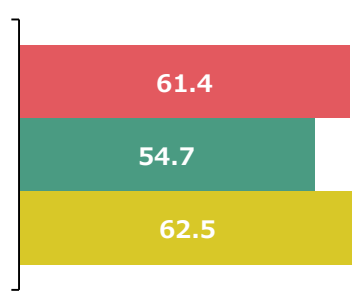
【参考：保護者の家事・育児に対する性別による思い込み】

「性別による「無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）」に関する実態調査（令和5年3月）東京都生活文化スポーツ局」より

家事は女性の方が向いていると思う



育児は女性の方が向いていると思う



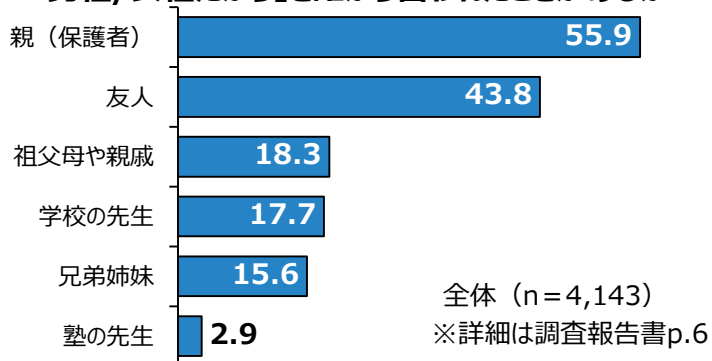
結果

小学生の保護者でも、男性に比べ女性の方が「家事／育児は女性の方が向いている」と思う割合が高かった。特に、「育児は女性の方が向いている」と回答した割合は、男性で約5割、女性で約6割と高校生よりも高かった。

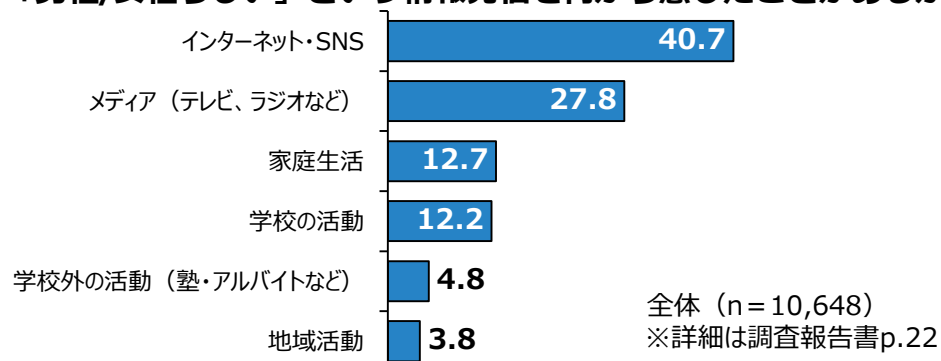
5 周囲からの影響

【仮説】「性別による思い込み」は、周囲の大人からの影響に限らず、マスメディアなどからの情報、友人、同僚などの言動による影響が見られる。

「男性/女性だから」と誰から言われたことがあるか



「男性/女性らしい」という情報発信を何から感じたことがあるか

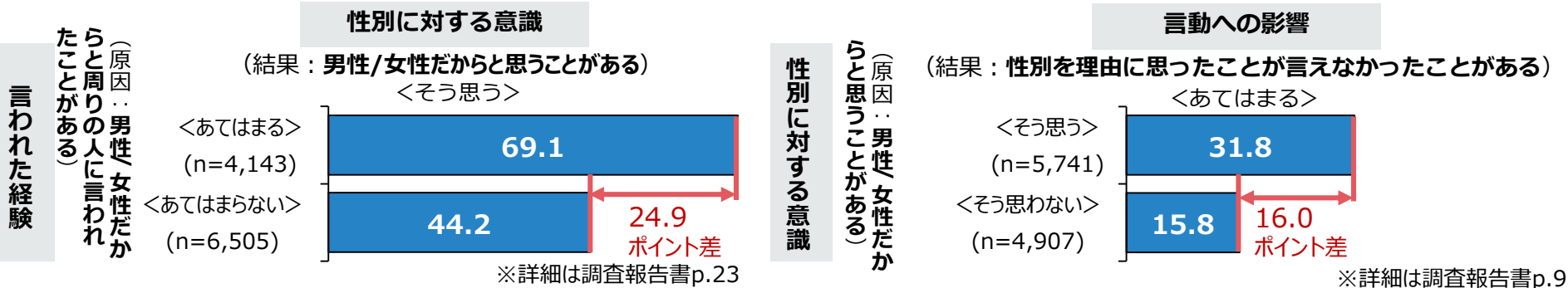


高校生は男女ともに親や友人、インターネットやSNSなど、多様な人々・多様な媒体から「男性/女性らしい」という情報発信を受けていると感じている。

結果

➤ **「性別による思い込み」は、周囲の大人からの影響に限らず、日常生活における様々な場面から影響を受けている蓋然性があると認められた。**

【性別について言われた経験と自身の意識・言動との関係】



結果

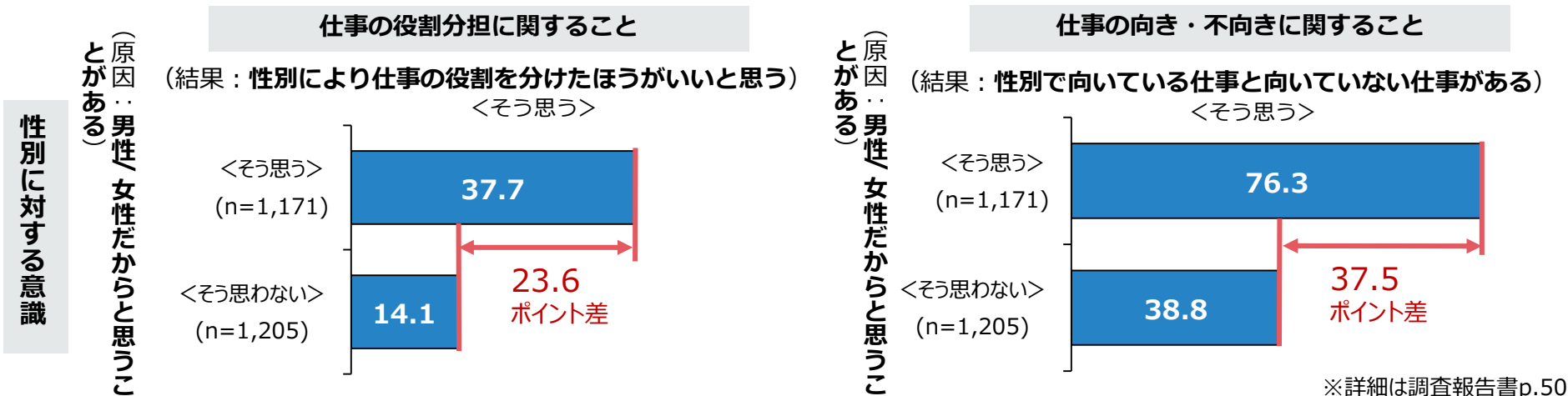
「男性/女性だから」と言われた経験のある人の方が、自身も「男性/女性だから」と思う傾向がある。また、「男性/女性だから」と思う人の方が「思ったことが言えなかった」傾向がある。

➤ **周りの人から性別を理由とした発言を受けることで、生徒の性別に対する意識・言動への影響がみられた。**

6 教員自身の「性別による思い込み」

※分析は、属性（役職）で「その他（実習助手・理科助手等）」と回答したものを省き分析を行っており、回答者数の合計とは一致しない。

【仮説】 教員自身の「性別による思い込み」は、生徒の進路や将来の仕事に関する「性別による思い込み」に影響する。



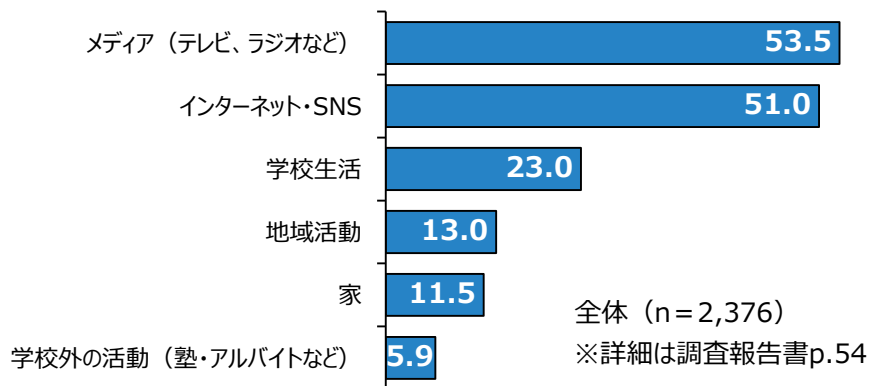
結果

自身が「男性/女性だから」と思う人ほど、仕事の役割や向き不向きに性別が関係していると思う傾向がある。

➤ **教員自身の「性別による思い込み」が、生徒の進路や将来の仕事に関する意識に影響している可能性がある。**

【仮説】 「性別による思い込み」は、周囲の大人からの影響に限らず、マスメディアなどからの情報、友人、同僚などの言動による影響が見られる。

「男性/女性らしい」という情報発信を何から感じたことがあるか



結果

教員も男女ともに様々な場面から「男性/女性らしい」という情報発信を受けていると感じており、特にメディアやインターネット・SNSの割合は高校生よりも高い。

➤ **高校生に比べ、教員の方がメディアやインターネット・SNSから影響を受けている可能性がある。**

Ⅲ 考察及び今後の取組方針

1 調査結果の考察

- 考察① 年齢を重ねるにつれ、身近な人間関係やSNSなど周囲からの影響を数多く受けることで、「性別による無意識の思い込み」を抱いてしまうことが考えられるため、幼少期から「無意識の思い込み」について知ることが重要
- 考察② 学業における教科の得意・不得意などをはじめ、「進路や職業選択において性別が大きな理由にならない」ことを知ることや、経験することを通じて、「性別による無意識の思い込み」を上書きしていくことが重要
- 考察③ 性別に対する意識は日常の様々な場面から影響を受け形成されるため、自身の「性別による無意識の思い込み」について、日頃から気づけるような機会やきっかけづくりが重要

2 今後の取組方針

【考察①を踏まえて】

子供を対象とした職業・社会体験施設等と連携し、「無意識の思い込み」に関する普及啓発イベントを実施するなど、幼少期からの取組を推進

【考察②を踏まえて】

民間企業等と連携し、学生に対し、性別に関係なく活躍しているロールモデルと交流できる機会を提供するなど、「進路や職業選択において性別は大きな理由にならない」ことを経験できる取組を推進

【考察③を踏まえて】

自身の「性別による無意識の思い込み」に気づくきっかけや、性別役割分担意識の解消につながるよう、動画やグッズを用いた普及啓発を推進

また、教育庁と連携し本調査結果を教員へ周知するなど、教員自身の気づきのきっかけとする。



職業・社会体験施設と連携したイベントの実施
画像提供：キッズニア東京



性別に関係なく活躍しているロールモデルとの交流機会の提供



動画やグッズを用いた普及啓発



※詳細は調査報告書（生活文化スポーツ局HP掲載）をご覧ください。

https://www.seikatubunka.metro.tokyo.lg.jp/danjo/wlb_top/0000002371.html

